

07 肝細胞癌

※ レジメン名称を [クリック](#) または [Ctrl](#) + [クリック](#) してください。該当ページに移動します。

※ 印刷時は、[“現在のページを印刷する”](#) を選んでください。

	分類	コード	レジメン名称	備考
1	共通	07002-1A	NEW FP 療法	
2	共通	07003-1A	アイエーコール動注療法	
3	科別(消内)	07006-1B	5-FU 間歇大量肝動注療法	
4	科別(消内)	07007-1B	Low dose FP 肝動注療法(5日投与2日休薬 5-FU5 時間投与)	
5	科別(消内)	07007-2B	Low dose FP 肝動注療法(5日投与2日休薬 5-FU23 時間投与)	
6	共通	07008-1A	ラムシルマブ療法(肝)	
7	共通	07009-1A	アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法	

07002

肝細胞癌

NEW FP 療法

申請科

内科

H21.2 承認、H27.7 改訂、H28.6 改訂 H30.7 改訂 R2.6 改訂 R3.5 改訂

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1クール)
アイエーコール (cisplatin)	50mg/body/day	i.a.	day1、8
リピオドール	5~10mL	i.a	day1、8
フルオロウラシル (5-FU)	250mg/body/day	i.a.(one shot)	day1、8
フルオロウラシル (5-FU)	250mg/body/day	cia.(24hour)	day1~5、8~12

3週毎
耐性になるまで

Regimen

点滴静注 4時間	day1、8 メイン①生理食塩液 500mL 1B	24時間	day2~4、9~11 動注メイン①生理食塩液 500mL 1B フルオロウラシル注250mg1V
4時間	メイン②生理食塩液 500mL 1B		
30分	メイン③グラニセロン点滴静注バッグ 1mg 1B デキサート注 6.6mg 1V	24時間	day5、12 動注メイン①生理食塩液 500mL 1B フルオロウラシル注250mg1V
TAE	動注①アイエーコール 50mg 1V リピオドール ()mL	5分	動注メイン②生理食塩液50mL 1B 動注メイン③ヘパリン Na ロック用 (100 単位/mL) 10mL 1本 リザーバー動注終了時フラッシュ用
one shot	動注②フルオロウラシル注250mg 1V		
5分	動注メイン①生理食塩液50mL 1B		
24時間	動注メイン②生理食塩液 500mL 1B フルオロウラシル注250mg 1V		
点滴静注 4時間	<アイエーコール動注後> メイン④生理食塩液 500mL 1B		
4時間	メイン⑤生理食塩液 500mL 1B		
備 考			
【レジメンシステム登録】			
07002-1A NEW FP 療法 ・リピオドール 10mL で登録			

07003

肝細胞癌

アイエーコール動注療法

申請科

内科

H23.9 登録、H27.7 改訂、H28.6 改訂 H30.7 改訂

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1ケル)
アイエーコール (cisplatin)	65mg/m ²	リザーバー持続動注 1日1回肝動脈内に 20~40分間	day1
4~6週間休薬 進行肝癌			
Regimen			
	動注メイン①生理食塩液 20mL 1本 フラッシュ リザーバー動注開始時フラッシュ用		
5分	動注メイン②生理食塩液50mL 1B		
40分	動注側①生理食塩液 100mL 1B アイエーコール ()mg 調製時には約 50 度に加温した生食で溶解 肝動脈内に挿入されたカテーテルから投与 リザーバー持続動注		
5分	動注側②生理食塩液50mL 1B 動注メイン③ヘパリン Na ロック用 (100 単位/mL) 10mL 1本 リザーバー動注終了時フラッシュ用		
備 考			
【レジメンシステム登録】 07003-1A アイエーコール動注療法 ・1ケル 4 週間、投与時間 40 分で入力 ※腎毒性軽減の為の輸液については、通常の注射 処方を入力とする。 ※アイエーコール調製時には約50度に加温した生 理食塩液で溶解			

07006

肝細胞癌

5-FU 間歇大量肝動注療法

申請科

内科

H23.8 登録、H27.7 改訂、H28.6 改訂 H30.3 改訂 R1.6 改訂 科別(消内)

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1クール)
フルオロウラシル (5-FU)	1000mg/m ²	リザーバー肝動注 5時間	1週間毎
3か月間を目安とする			
Regimen			
	動注メイン①生理食塩液20mL 1本 フラッシュ リザーバー動注開始時フラッシュ用		
5分	動注メイン②生理食塩液50mL 1本		
	動注 側①生理食塩液20mL 1本 ルート充填用		
5時間	動注 側②フルオロウラシル注()mg シリンジに調製、リザーバーによる 持続肝動注		
			備 考
5分	動注メイン③生理食塩液50mL 1本 動注メイン④ヘパリン Na ロック用 (100 単位/mL) 10mL 1本 リザーバー動注終了時フラッシュ用		【レジメンシステム登録】 07006-1B 5-FU 間歇大量肝動注療法 * 5-FU: インジエクトルアローック付きシリンジで払い出し、ルートにコネクタアローックを接続し投与。

07007

肝細胞癌

Low dose FP 肝動注療法

(5日投与2日休薬5FU23時間投与)

申請科

内科

H27.7改訂、H28.6改訂 H30.5改訂 科別(消内)

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1クール)
フルオロウラシル (5-FU)	250mg/body/day	i.a.(23hour)	day1, 2, 3, 4, 5 (5day/w×4week) day6, 7は休薬
シスプラチン(CDDP) (cisplatin)	10mg/body/day	i.a.(1hour)	day1, 2, 3, 4, 5 (5day/w×4week) day6, 7は休薬
4週を1クールとして、1～6クール施行。 各クール間の休薬期間は設定なし。			
Regimen			
	<p>day1, 8, 15, 22</p> <p>動注メイン①生理食塩液 20mL 1本 フラッシュ リザーバー動注開始時フラッシュ用</p> <p>5分 動注メイン②生理食塩液50mL 1B</p> <p>1時間 動注メイン③生理食塩液 100mL 1B シスプラチン注 10mg 1V</p> <p>23時間 動注メイン④生理食塩液 500mL 1B フルオロウラシル注 250mg 1V</p>	<p>day2～5, 9～12, 16～19, 23～26</p> <p>1時間 動注メイン①生理食塩液 100mL 1B シスプラチン注 10mg 1V</p> <p>23時間 動注メイン②生理食塩液 500mL 1B フルオロウラシル注250mg 1V</p> <p>day6, 13, 20, 27</p> <p>5分 動注メイン①生理食塩液 50mL 1B</p> <p>動注メイン②ヘパリン Na ロック用 (100単位/mL) 10mL 1本 リザーバー動注終了時フラッシュ用</p>	
備 考			
<p>【レジメンシステム登録】</p> <p>07007-2B</p> <p>Low dose FP 肝動注療法(5日投与2日休薬 5-FU23時間投与)</p>			

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
07008	共通	肝細胞癌	ラムシルマブ療法(肝)	消化器内科
適応患者				
病期(stage); I IIa IIb Ⅲ Ⅳ PS;0~1			<input type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input checked="" type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他()	
薬剤の量・経路・時間・1クルルの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(クール数)、化療ベット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
サイラムザ (Ramucirumab)	8mg/kg	div.(60min)	day1	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)	2週毎 可能な限り継続	(外来)化療ベット予約:1.5時間で登録		
Radiation 併用 無	1回 Gy×	日、Total	Gy×	Fr
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート			
5分	Day1 メイン①生理食塩液 50mL 1B ネオレスタール注 10mg 1A			
※ 60分 30分	側①生理食塩液 250mL 1B サイラムザ()mg			
5分	側②生理食塩液 50mL 1B			
備 考				
<p>・サイラムザによる infusion reaction が発現する恐れがあるため、投与中は患者の状態を十分に観察すること。</p> <p>※サイラムザの投与時間:初回は60分かけて点滴静注し、 忍容性を見ながら、2回目以降30分まで短縮可能。</p> <p>【レジメンシステム登録】 07008-1A ラムシルマブ療法(肝)(入院用) 07008-2A ラムシルマブ療法(肝)(外来用)</p> <p>R2.12 添付文書改訂により、ラムシルマブ点滴静注の投与時間短縮可能であるコメント追記</p>				

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
07009	共通	切除不能な肝細胞癌	アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法	消化器内科
適応患者				
病期(stage); I IIa IIb IIIa IIIb IV		<input type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input checked="" type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/>		
PS; 0~1 (まで)		その他()		
薬剤の量・経路・時間・1クルの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(クール数)、化療ベット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
テセントリク (atezolizumab)	1200mg/body	Div 初回 60 分 忍容性良好なら 2 回目以降は 30 分	Day1	
アバステン (bevacizumab)	15mg/kg	Div 初回 90 分 忍容性良好なら 2 回目は 60 分 それ以降は 30 分	Day1	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)		3 週毎・1 回	化療ベット予約: 3.0 時間で登録	
Radiation 併用 有・ 無		1回 Gy× 日、Total Gy× Fr		
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート			
5 分	day 1			
※1	メイン①生理食塩液	50mL	1B	備 考 ※1 テセントリクの投与時間；初回は 60 分かけて点滴静注。忍容性良好なら、2 回目以降の投与時間は 30 分まで短縮できる。 ※2 アバステンの投与時間；初回は 90 分かけて点滴静注。忍容性良好なら、2 回目 60 分、以後 30 分とする。 ・基本的に前投薬は行わないが、サイクル 1 で infusion reaction が発現した場合、抗ヒスタミン薬や解熱鎮痛剤(アセトアミノフェン)の前投薬を考慮。 ・テセントリクはインラインフィルターを通す必要がある。 ・初回は入院のうえ、モニターを装着して行う。 【レジメンシステム登録】 07009 アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法 アテゾリズマブ投与時間 60 分で入力 BEV 投与時間 90 分で入力
60 分	側①テセントリク	1200mg	1V	
30 分	生理食塩液	250mL	1B	
5 分	側②生理食塩液	50mL	1B	
※2	側③生理食塩液	100mL	1B	
90 分	アバステン	()mg		
60 分				
30 分				
全開 (5分)	側④生理食塩液	50mL	1B	

